

観光事業と街づくり支援の事例

(金融機関名) しのめ信用金庫

1. 動機(経緯)	<ul style="list-style-type: none">・平成15年8月、当金庫の本店所在地に現存する産業遺産(近代化遺産)について、世界遺産への登録を進めると県が発表。・世界遺産登録に向けた様々な取組みが実施されるとともに、地域金融機関として地域活性化の大きなチャンスととらえ、世界遺産推進活動を積極的に支援することとした。・本産業遺産は平成19年に世界遺産国内暫定リストに登載された。
2. 概要	<ul style="list-style-type: none">・世界遺産登録に向けた行政のスピード(平成15年の発表後、国史跡指定、重要文化財指定、世界遺産国内暫定リスト登載)に比べ、市民(特に商店街)の当事者意識は希薄であった。そこで世界遺産に登録された場合の経済的な効果を示すことで、市民の意識改革を図ることを目的に、経済効果を分析し発表した。この分析は中央機関である信金中央金庫の協力のもと、産業連関表を活用して観光面における経済効果を分析したものの。・世界遺産暫定リストに登載されたことでマスコミに取り上げられることも増え、観光客も急増している状況を踏まえ、観光客の受入れ態勢整備や世界遺産登録推進による経済効果を見込んだ起業などに対応する融資商品を18年3月に開発。無担保で第三者保証を不要とし(個人事業主は保証人不要、法人は代表者を連帯保証人とする)、低利で対応している(20年2月末現在1.90%)。・世界遺産登録を推進する民間団体(法人や団体含め1500会員から構成)の事務局を平成16年2月より担当し、様々な市民活動を展開している。当団体は世界遺産登録を推進する幾つもの民間団体の核となる存在である。
3. 成果(効果)	<ul style="list-style-type: none">・融資商品は20年2月末現在、12件、74,100千円を実行した。・経済効果の分析結果は、官庁や商工会議所、商店街などに配付するとともに、ホームページに掲載するなど周知活動を実施した。またニュースリリースを発信したことから新聞紙面でも紹介された。観光事業が地域経済に与える影響(効果)を認識いただくことができたことと評価している。・当金庫が市民団体の事務局を努めることで、1500会員からなる同団体の資金管理や運営が効果的に行われているものと認識している。
4. 今後の予定(課題)	<ul style="list-style-type: none">・世界遺産登録に向けて産業遺産の利活用や街づくりが焦点となる。地域の再生や活性化において、世界遺産を核とした街づくりをどう描いていくかが課題であり、企業市民として提案等を行って参りたいと考えております。

商品概要

【平成 19 年 11 月 26 日現在】

名称	地域活性化応援資金「赤れんがローン」
ご利用いただける方	<ul style="list-style-type: none">当金庫の会員資格をお持ちで、かつ当金庫が適当と認めた法人もしくは個人事業者
お使いみち	富岡製糸場の世界遺産登録に係る観光者向けサービスや受入態勢への対応等、経済的効果を見込む資金 富岡製糸場の世界遺産登録に関連する企業・開業資金 富岡市周辺地域においても上記の条件を満たす場合は、本商品をご利用いただくことができます。
ご融資金額	<ul style="list-style-type: none">1先につき 30 百万円以内（10 万円単位）とします
ご融資期間	<ul style="list-style-type: none">最長 10 年以内（元金据置期間 6 ヶ月以内）
ご融資利率	<ul style="list-style-type: none">当金庫新長期プライムレート連動による変動金利型貸付とします
ご返済方法	<ul style="list-style-type: none">毎月元金均等分割返済とします
担保・保証	<ul style="list-style-type: none">原則、不要とします
保証人	<ul style="list-style-type: none">法人の場合 ... 法人代表者（実質経営者含む）とします個人事業者の場合 ... 原則、不要とします
手数料等	<ul style="list-style-type: none">ご融資実行時に事務手数料 1,575 円（消費税込み）が必要となります一部繰り上げ返済および期日前完済等の条件変更時には、5,250 円（消費税込み）の事務手数料がかかります
その他	<ul style="list-style-type: none">決算書 3 期分をご用意くださいその他必要に応じて書類等の提出が必要になる場合もあります審査の結果ご希望に添えない場合もありますので、あらかじめご了承ください現在のご融資利率やご返済額の試算等詳細につきましては、当金庫の窓口または担当者にお問い合わせください

くわしくはお近くの窓口または営業担当までお問い合わせください。

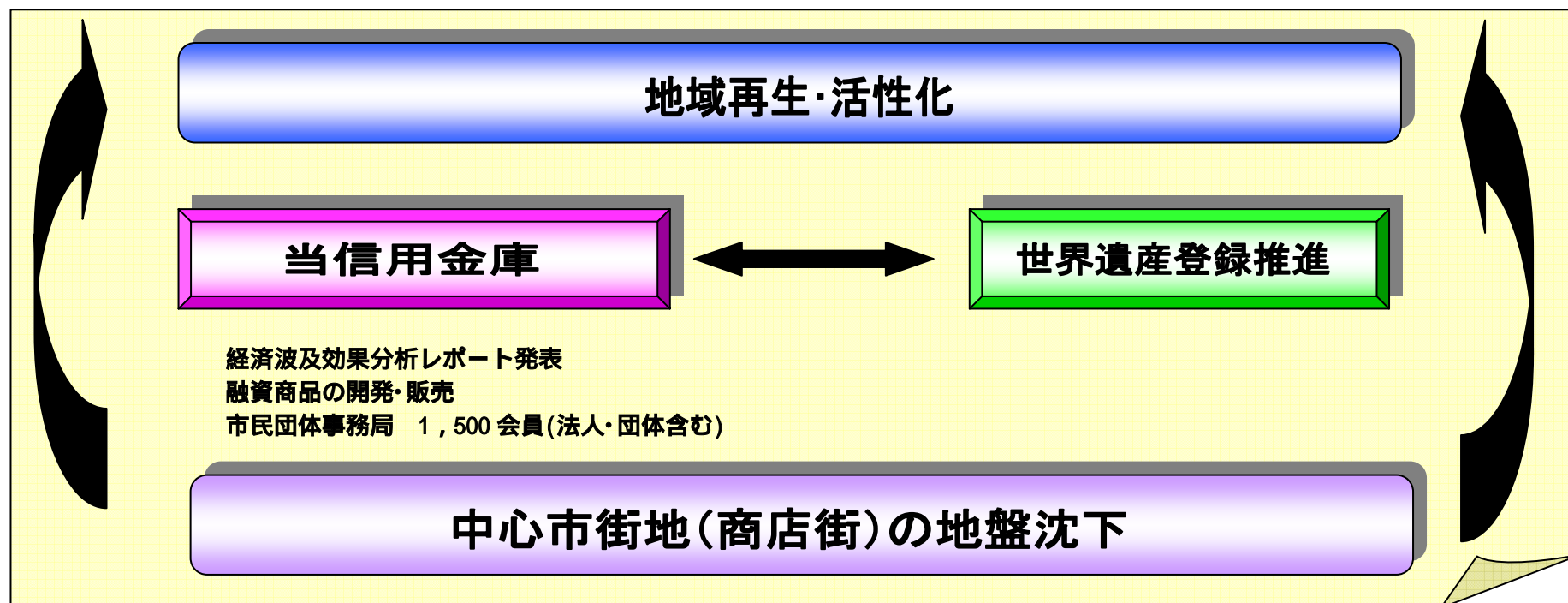
地域再生、活性化への取組み：観光事業と街づくり支援の事例


世界遺産登録推進運動を契機とした観光事業による地域再生

- 県が当金庫本店所在地に現存する産業遺産の世界遺産登録推進を発表し、マスコミにも取上げられ観光客が急増
- 産業遺産を核とした観光事業による地域再生・活性化と、街づくりへの取組み

当金庫は市（本店所在地）の指定金融機関として世界遺産登録運動を積極支援

- 世界遺産登録を前提とした経済波及効果を分析し、発表（経済効果を84億円と計測）
- 大幅に増加している観光客向けサービスや受入態勢整備等に係る融資商品開発（赤れんがローン）
- 世界遺産登録の推進を目的とする市民団体（会員1,500人）の事務局として地域住民と連携した活動展開



<p style="font-size: 24px; margin: 0;">かんらしんきん</p> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">地域経済レポート</p> <p style="font-size: 12px; margin: 0;">平成 19年2月発行</p>	 <p style="font-size: 24px; margin: 0;">かんら信用金庫</p> <p style="font-size: 12px; margin: 0;">群馬県富岡市富岡 1123</p> <p style="font-size: 10px; margin: 0;">TEL : 0274-62-3146 FAX : 0274-64-1337</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

富岡製糸場のユネスコ世界遺産登録による経済効果分析

《 経済効果は年間 84.9 億円 》

要旨

《経済効果計測の前提》

- このレポートは富岡製糸場が世界遺産に登録された場合の観光客数の増加数値、および官民一体となって観光客の受入態勢を整備することで、増加すると考えられる一人当たりの観光消費額を推計し、観光面における富岡市への経済効果を計測したものである。
- 観光客数の増加予想は、既に世界遺産に登録されている「白川郷」における世界遺産登録前後の観光客数の変動数値（2.5倍）を富岡市に適用し推計している。
- 観光消費額について、富岡市の最近5年間の平均観光消費額は1,980円であるが、観光客の大幅な増加が見込める以上、観光客向けのおみやげ品の開発や飲食物の提供に取り組むことは必然であり、観光消費額を増加させることは十分可能である。近県では日帰り観光客の観光消費額が4,000円～7,000円の事例もあることから4,000円として推計している。

《要旨》

- 富岡製糸場がユネスコ世界遺産に登録された場合における1年間の経済波及は、直接効果52.6億円+波及効果32.3億円（第1次波及効果27.7億円、第2次波及効果4.6億円）の合計84.9億円が見込まれる。
- 経済波及効果による粗付加価値誘発額17.0億円は、富岡市の名目域内総生産（2,163.3億円、平成12年度数値）を0.78%押し上げるとともに、324人の就業誘発効果が期待できる。
- 観光消費額別の経済効果予想数値

1人当たりの 観光消費額	経済効果			就業誘発効果
	直接効果	波及効果	経済効果合計	
4,000円(予想)	52.6億円	32.3億円	84.9億円	324人
1,980円(現状)	26.1億円	16.0億円	42.1億円	160人

- 平成11年4月に「鉄道文化むら」をオープンした松井田町の事例について、7ページで紹介しているので参考としていただきたい。
- 白川郷の世界遺産登録以前の知名度を考慮すれば、2.5倍という観光客の増加予想値は控えめな数値とも考えられるが、努力なしに2.5倍が確約されているものではない。
- 世界遺産を保有する富岡市を訪れる多くの観光客に満足いただくことが、結果として富岡市の経済的な発展をもたらすこととなる。そのためにどう取り組むか、地域住民の理解と協力が必要不可欠である。

要旨に記載されている用語解説

経済波及効果・・・特定の事象（地域内のある産業に、新たな需要が生じるなど）を想定した場合における原材料・サービスの取引や消費活動を通じて地域内の産業全体に及ぼす影響。
 直接効果・・・・・・・・特定の事象により需要が増加する産業で生じる新たな生産額。
 粗付加価値・・・・・・・・生産活動によって新たに生み出された価値をいい、中間投入額（財・サービスを生産するための原材料等）に粗付加価値を加えたものが地域内生産額。
 粗付加価値誘発額・・・最終需要の各項目（家計外消費支出、民間消費支出、一般政府消費支出、県内総固定資本形成及び在庫純増）が、どの産業の粗付加価値をどれだけ誘発したかを示すもので、最終需要を賄うために、直接・間接に必要となった粗付加価値額の合計をいう。
 名目域内総生産・・・地域内の生産活動により生み出された粗付加価値の時価評価額で、粗付加価値から家計外消費支出（企業消費）を控除したものが域内総生産にほぼ相当する。
 就業誘発効果・・・・・・・・直接効果、第1次・第2次波及効果の経済波及による生産額の変化が及ぼす雇用者数の増加。

はじめに

富岡製糸場をユネスコ世界遺産として登録しようとする取り組みについては、群馬県、富岡市および各民間団体が様々な活動を展開している。世界遺産登録の第一段階として平成17年7月14日に国指定史跡、平成18年7月5日には国の重要文化財に指定され、さらに第二段階として平成19年1月23日に日本国暫定リストへの追加登載が決定したことで、富岡製糸場の歴史的・文化的価値の啓蒙活動など世界遺産の登録に向けた活動・運動が更に盛り上がるのが期待される。

その一方で、世界遺産に登録できた場合に、地域や地域住民にどのような経済的な利益や影響を及ぼし、どんな効果があるのかといった率直な疑問を持っておられる方々もいるのではないだろうか。

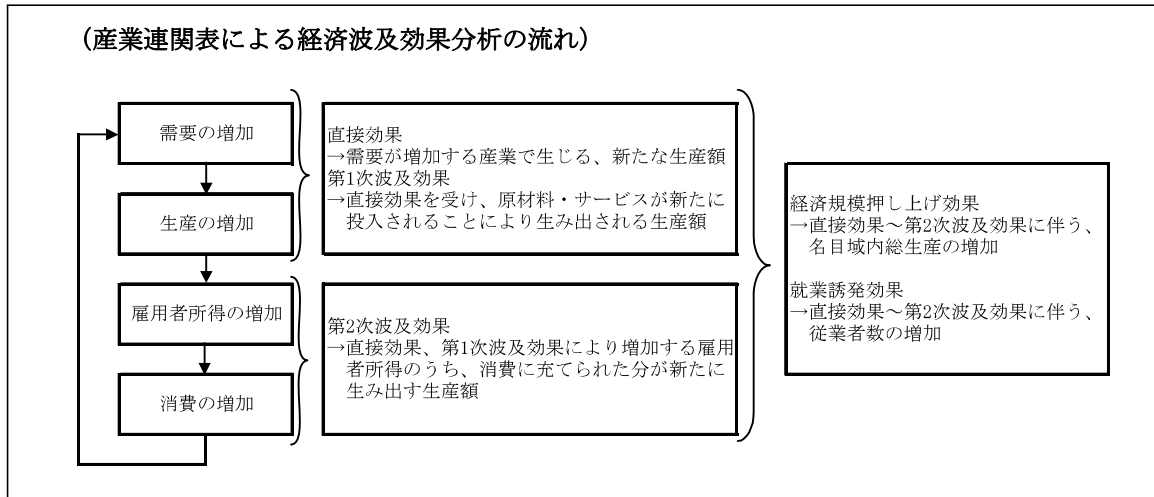
そこで、より直接的に期待される地域経済への波及効果について、信金中央金庫総合研究所が取りまとめた「地域産業連関表作成マニュアル」を活用し富岡製糸場が世界遺産に登録された場合の観光面における富岡市の経済波及効果を計測することとした。なお、産業連関表とは特定期間（通常1年）における地域経済での産業部門相互間及び産業と家計や地域間での財・サービスの取引関係を一覧表にまとめた経済循環の一つの見取図であると理解いただきたい。

このレポートは経済波及効果の分析結果について要点を取りまとめたものであり、別冊として詳細レポートを作成しているのので、興味のある方はかんら信用金庫(企画部)にお問い合わせいただきたい。

産業連関表について

① 概要

- ・ 経済を構成する各産業においては、様々な商品（財・サービス）を生産している。これらの産業は、それぞれが別個に生産活動を行なっているのではなく、原材料や燃料等の取引を通じて、相互に網の目のように密接に関わり合っており、ある産業の需要の増減はその産業需要の増減にとどまらず、各関連産業に直接・間接の影響を与えることになる。
- ・ 各産業の生産活動は、私たち消費者の最終的な需要によって影響を受けるとともに、各産業で働く雇用者の賃金にも影響を与える。さらに、消費者でもある雇用者の賃金から、新たな需要が生み出されるなど、経済活動は独立したものではなく、産業相互間あるいは産業と家計などの間で密接に結びつき、互いに影響を及ぼし合っている。
- ・ このように産業連関表とは、一定の地域（国や県など）において、一定の期間（通常1年間）に行われた産業相互間における財・サービスの取引、産業と家計などの最終消費者との取引、地域間の取引を数値化し一覧表にまとめたものである。
- ・ この産業連関表を活用することで、特定産業の需要の増加（富岡製糸場の世界遺産登録においては観光客消費額の増加）が他の産業にどのような影響を与え、ひいては特定地域の経済活動にどう影響するか計測できる。



② 産業連関表の留意点

- ・ 西暦末尾が「0」と「5」の年を対象年次として、5年に1度のペースで作成されている。作成作業が非常に緻密なために、公表までにはかなりの時間を要しているのが現状のようだ。例えば、2000年(平成12年)対象年次版は、2004年(平成16年)3月に確報が公表されている。
- ・ 産業連関表は緻密な反面、作成対象年からおよそ4～5年遅れで公表されていることから、次の産業連関表が完成するまでの間、公表済みの産業連関表を使用することを考えると、最長で約10年前の経済構造を示す産業連関表を使用せざるを得ないことになり、時宜に適したものとなっていないことに留意する必要がある。
- ・ 本レポート作成にあたっては、信金中央金庫総合研究所がまとめた地域産業連関表の平成12年モデルを活用しているが、産業連関表は市町村レベルでは殆ど作成されていないことから(政令指定都市の一部で作成)、群馬県産業連関表の数値を、各種統計データ等の分割指標により按分して算出した。

③ 富岡市の2000年産業連関表・3部門表(図表1)

【単位: 億円】

供給部門	需要部門	中間需要			中間需要計	最終需要			最終需要計	需要合計	(控除) 移輸入	市内生産額
		第1次産業	第2次産業	第3次産業		消費	投資	移輸出				
中間投入	第1次産業	6	85	5	96	15	4	32	52	149	△96	53
	第2次産業	11	1,809	170	1,990	249	410	3,641	4,301	6,291	△1,886	4,405
	第3次産業	9	963	341	1,314	1,241	76	147	1,466	2,780	△1,247	1,532
中間投入計		26	2,857	516	3,401	1,507	490	3,822	5,819	9,221	△3,229	5,992
粗付加価値		26	1,547	1,015	2,590	第1次産業・・・農業・牧畜業・林業・水産業・狩猟業 第2次産業・・・鉱業・工業・建設業 第3次産業・・・商業・運輸通信業・金融保険業・公務・自由業 その他のサービス業						
市内生産額		53	4,405	1,532	5,992							

(備考) 主な用語解説は下記のとおり
 中間投入・・・各産業が財・サービスを生産するために、原材料等をどの産業からどれだけ購入したかを示す。
 中間需要・・・生産活動の結果生み出された各産業の生産物が、自・他産業の原材料や燃料などの中間生産物としてどれだけ販売されたかを示す販売額。
 移輸出・・・域内の事業所及び個人が域外(国外)に対して行った移出(輸出)。
 移輸入・・・域内の事業所及び個人が域外(国外)から購入する財・サービスの移入・輸入。
 内生部門・・・生産活動にかかる産業間取引を示す中間投入・需要の合計。粗付加価値、最終需要は外生部門となる。
 粗付加価値・・・生産活動によって新たに生み出された価値のこと。雇用者所得や営業余剰は、粗付加価値の分配状況を示す。
 雇用者所得・・・サラリーマンなどが働いて受け取る所得。賃金のほか、雇用主が負担する社会保険料など。
 営業余剰・・・企業が得た利潤が該当する。雇用者所得に含まれていない個人事業主の所得も含む。
 最終需要・・・ある産業が最終的に消費されるモノやサービスをどれだけ家計や企業・政府機関等へ販売したかを表す。

④ 富岡市産業連関表の分析

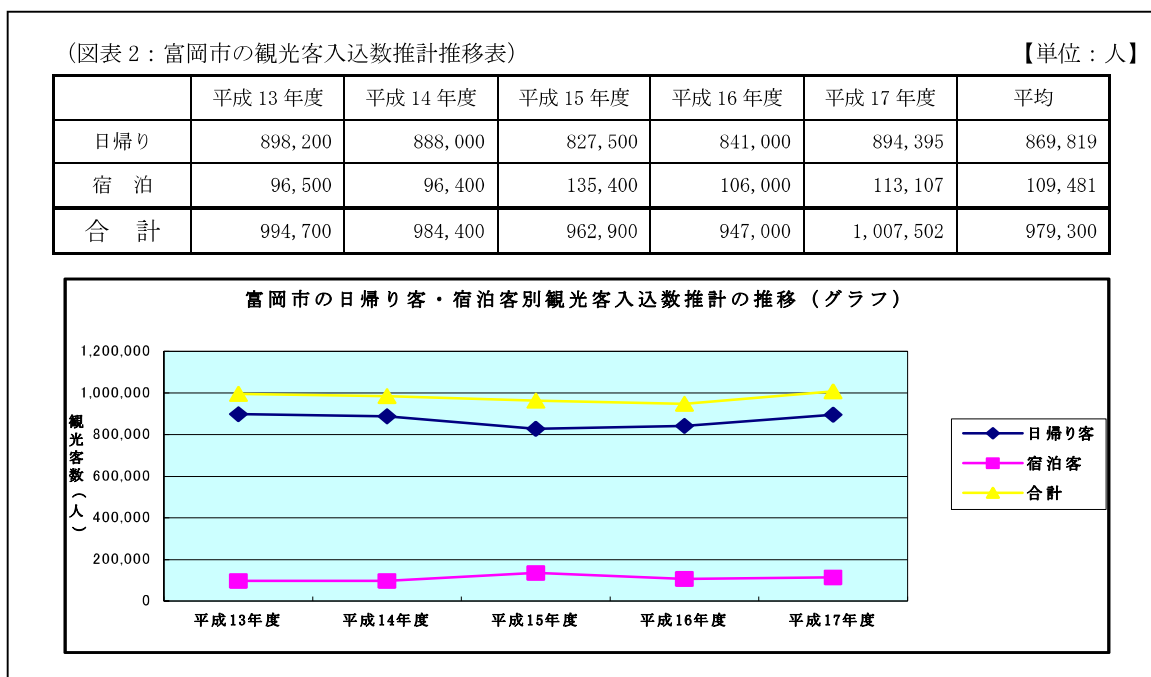
- ・ 作成した富岡市産業連関表によれば、平成 12 年（2000 年）に富岡市で生産された財・サービスの総額（市内生産額）は 5,992 億円である。この市内生産額 5,992 億円を生産するために、産業全体として 3,401 億円が中間投入され、その結果 2,590 億円の粗付加価値が生み出されている。
- ・ 市内生産額と移輸入額 3,229 億円を合わせた総需要額 9,221 億円のうち、3,401 億円が中間需要として各産業へ、残り 5,819 億円が最終需要部門（消費・投資・移輸出）へ販売されている。
- ・ 市（県・国）外との取引をみると、3,822 億円が移輸出され、3,229 億円が移輸入されている。
- ・ 具体的に「富岡市産業連関表（図表 1）」の第 1 次産業をタテ方向にみると、平成 12 年の 1 年間に、第 1 次産業は自部門から 6 億円、第 2 次産業から 11 億円、第 3 次産業から 9 億円の原材料を購入し、「中間投入額」26 億円によって、第 1 次産業は「市内生産額」53 億円の生産額をあげたことになる。この生産額から中間投入額を控除したものが粗付加価値額であり、生産活動の結果 26 億円の「粗付加価値」を生み出したことになる。
- ・ 第 1 次産業をヨコにみると、平成 12 年の 1 年間に第 1 次産業は、中間需要と最終需要を合わせた「需要合計」149 億円を販売している。
- ・ 市内生産額 53 億円との差額 96 億円は市（県・国）外からの「移輸入」によって賄われたことを意味している。

経済波及効果の算定

① 経済波及効果分析の前提

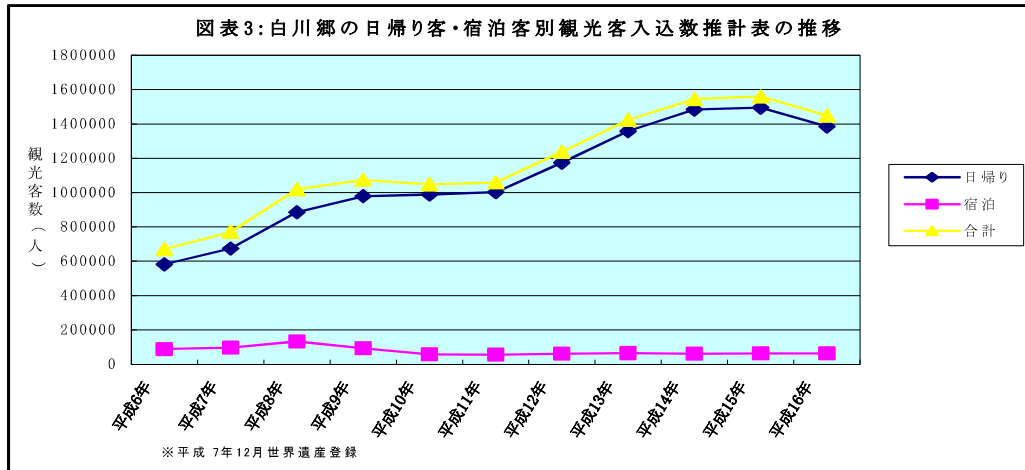
- ・ 世界遺産登録に伴い実に様々な面での経済波及が予想されるが、今回はその中でも最も効果が顕著に現れ、かつ期待されるであろう観光面での経済波及効果を前提としている。観光産業への需要増加に関する考え方としては、前提数字として世界遺産に登録されたことにより、予想される「富岡市の年間観光消費額」から「現在の年間観光消費額」を差し引いた数字を用いることとする。

② 富岡市における観光客数の現状（平成 13 年度～平成 17 年度の状況：図表 2 のとおり）



③ 世界遺産登録により予想される観光客数

- ・ 富岡製糸場が世界遺産に登録された場合の予想観光客数の算出にあたっては、既に世界遺産登録されている白川郷における登録前の観光客数と登録後の観光客数の増加状況を参考数値とした。
- ・ 白川郷の日帰り観光客数は世界遺産登録前の5年間平均 548,800 人に対し、直近5年間平均では 1,379,000 人とおよそ 2.5 倍になっている。



- ・ 白川郷は世界遺産登録以前より相応の知名度があったこと、また、気候（冬場は降雪のため、訪れるのが困難）や首都圏からのアクセス面を考慮すれば、白川郷の観光客数増加数値（2.5倍）を富岡市に適用することは“控えめな前提”とも考えられるが、世界遺産に登録されたことにより、改めてその素晴らしさが広く世間に認知された事例ということができ、他の登録地と比較した場合、富岡製糸場と境遇が類似する点が多いと考えられることから、この2.5倍という数値を富岡市に適用し観光客数を推計することとした。

④ 世界遺産登録により予想される観光消費額

- ・ 富岡市における日帰り観光客一人当たりの観光消費額は1,980円であるが(最近5年間平均)、観光客の大幅な増加が見込める以上、観光客向けのおみやげ品の開発・販売や飲食物の提供に傾注することで観光消費額を増加させることは十分可能である。
- ・ 近県では日帰り観光客の観光消費額(県全体の平均)が4,000円~7,000円の事例もあることから、4,000円を増加目標数値として算出することとした。
- ・ 図表4は2.5倍という日帰り観光客の増加予想数値と、一人当たりの観光消費額4,000円という増加目標数値から算出した富岡市の予想観光消費額である。

(図表4: 白川郷の日帰り観光客増加状況からみた富岡市の観光消費額予想増加額)

	年度(年)	平均観光客入込数	白川村増加率	富岡市観光客変動予想	富岡市観光客予想増加数	富岡市観光客平均消費額	富岡市観光消費額増加予想額
富岡市	H13~H17	869,819	151.28%	2,185,681	1,315,862	4,000	5,263,448,733
白川郷	H2~H6	548,800	(2.5倍)	人	人	円	円

- ・ この観光消費増加額（52億6,344万円）から算出した産業別経済波及効果の分析結果は、次ページに掲載した図表5「経済波及効果計測シミュレーション」のとおりである。

(図表 5 : 経済波及効果計測シミュレーション)

列番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	特定産業に対する需要増減の前提 百万円	市町村内自給率 %	市内品に対する需要 百万円	波及効果(第1次) 百万円	雇用者所得率 %	増加する雇用者所得 百万円	消費に回る雇用者所得 91.3%	民間消費支出の構成比 %
農林水産業	87.78	18.03%	15.83	35.81	6.86%	2.46		1.45%
飲業		75.49%		1.66	18.65%	0.31		0.00%
食料品	874.58	39.12%	342.14	413.10	16.10%	66.53		10.18%
繊維製品	19.15	7.43%	1.42	2.03	27.71%	0.56		1.89%
パルプ・紙・木製品	43.09	42.78%	18.44	36.02	22.85%	8.23		0.28%
化学製品	20.75	27.00%	5.60	12.39	10.87%	1.35		1.00%
石油・石炭製品	279.29	0.09%	0.24	0.29	16.05%	0.05		1.45%
窯業・土石製品	148.42	19.51%	28.95	30.77	23.66%	7.28		0.12%
鉄鋼		1.47%		0.03	19.48%	0.01		0.00%
非鉄金属		6.39%		0.13	19.50%	0.02		0.03%
金属製品		9.00%		1.12	31.13%	0.35		0.15%
一般機械		27.35%		2.43	20.14%	0.49		0.03%
電気機械		20.01%		1.48	18.38%	0.27		2.69%
輸送機械		6.63%		0.63	15.54%	0.10		1.76%
精密機械	7.98	0.80%	0.06	0.07	27.26%	0.02		0.33%
その他の製造工業製品	121.29	19.38%	23.51	34.28	21.26%	7.29		1.98%
建設		100.00%		22.69	34.61%	7.85		
電力・ガス・熱供給		1.11%		0.53	15.85%	0.08		2.13%
水道・廃棄物処理		92.00%		25.55	33.95%	8.67		0.74%
商業	748.50	20.48%	153.27	182.89	49.88%	91.23		14.46%
金融・保険		92.76%		76.50	33.41%	25.56		3.60%
不動産		99.72%		39.58	3.47%	1.37		18.59%
運輸	999.06	49.62%	495.76	546.74	32.84%	179.53		5.34%
通信・放送	33.51	60.40%	20.24	40.02	25.94%	10.38		2.76%
公務		100.00%		1.56	45.69%	0.71		0.23%
教育・研究		25.41%		2.00	72.67%	1.45		2.47%
医療・保健・社会保障・介護		99.57%		0.05	48.64%	0.02		5.45%
その他の公共サービス		65.47%		4.43	53.04%	2.35		1.13%
対事業所サービス	173.96	32.75%	56.96	121.72	32.64%	39.73		2.55%
対個人サービス	1,706.07	64.85%	1,106.36	1,121.43	27.90%	312.84		17.18%
事務用品		100.00%		5.10				
分類不明		72.76%		9.29	5.42%	0.50		0.01%
合計	5,263.44	—	2,268.79	2,772.29	—	777.61	709.96	100.00%

列番号	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	経済効果 ①+④+⑩ 百万円
	消費額の増減 (市内品) 百万円	波及効果 (第2次) 百万円	波及効果 (1次+2次) 百万円	粗付加価値率 %	粗付加価値 誘発額 百万円	就業係数 %	就業誘発者数 人	
農林水産業	1.85	3.51	39.31	49.87%	19.61	28.99%	11.40	127.09
飲業	-0.01	0.10	1.76	41.52%	0.73	4.07%	0.07	1.76
食料品	28.27	33.91	447.00	32.43%	144.96	2.91%	13.01	1,321.58
繊維製品	1.00	1.08	3.11	38.06%	1.18	9.22%	0.29	22.26
パルプ・紙・木製品	0.84	2.60	38.61	36.58%	14.13	5.40%	2.08	81.70
化学製品	1.92	4.33	16.72	26.66%	4.46	2.45%	0.41	37.47
石油・石炭製品	0.01	0.01	0.31	31.85%	0.10	2.99%	0.01	279.60
窯業・土石製品	0.16	0.37	31.14	42.81%	13.33	5.28%	1.64	179.57
鉄鋼	-0.00	0.00	0.04	31.88%	0.01	3.49%	0.00	0.04
非鉄金属	0.01	0.04	0.17	33.09%	0.06	1.93%	0.00	0.17
金属製品	0.10	0.26	1.38	46.97%	0.65	5.85%	0.08	1.38
一般機械	0.05	0.36	2.79	34.25%	0.96	2.83%	0.08	2.79
電気機械	3.83	4.27	5.75	31.91%	1.84	3.24%	0.19	5.75
輸送機械	0.83	0.93	1.55	23.33%	0.36	2.39%	0.04	1.55
精密機械	0.02	0.02	0.09	40.85%	0.04	7.19%	0.01	8.07
その他の製造工業製品	2.72	4.10	38.38	35.67%	13.69	5.18%	1.99	159.67
建設	0.00	8.49	31.19	45.49%	14.19	8.60%	2.68	31.19
電力・ガス・熱供給	0.17	0.23	0.76	44.97%	0.34	1.29%	0.01	0.76
水道・廃棄物処理	4.82	7.65	33.19	59.65%	19.80	5.58%	1.85	33.19
商業	21.03	23.99	206.88	68.89%	142.52	18.47%	38.22	955.38
金融・保険	23.70	39.08	115.58	64.61%	74.68	4.33%	5.00	115.58
不動産	131.62	136.57	176.15	85.74%	151.04	0.95%	1.67	176.15
運輸	18.83	23.81	570.55	48.54%	276.95	8.37%	47.73	1,569.61
通信・放送	11.85	15.32	55.33	55.54%	30.73	3.23%	1.79	88.85
公務	1.66	1.91	3.48	72.02%	2.50	4.71%	0.16	3.48
教育・研究	4.46	4.82	6.81	86.79%	5.91	6.75%	0.46	6.81
医療・保健・社会保障・介護	38.53	39.24	39.29	58.73%	23.07	9.70%	3.81	39.29
その他の公共サービス	5.27	5.73	10.16	61.11%	6.21	11.98%	1.22	10.16
対事業所サービス	5.93	14.45	136.17	52.11%	70.95	9.40%	12.80	310.13
対個人サービス	79.12	80.76	1,202.19	55.39%	665.95	14.60%	175.57	2,908.26
事務用品	0.00	0.66	5.76	0.00%	0.00	0.00%	0.00	5.76
分類不明	0.07	1.52	10.82	23.80%	2.57	0.87%	0.09	10.82
合計	388.64	460.12	3,232.40	—	1,703.53	—	324.35	8,495.84

① 第1次波及効果（図表5）

- ・ 直接効果により、52億6,344万円の中間需要が発生する。この中間需要は、27億7,229万円の第1次波及効果を生み出し、これを産業別にみると、対個人サービスで11億2,143万円、運輸で5億4,674万円、食料品で4億1,310万円、商業で1億8,289万円などとなる。

② 第2次波及効果（図表5）

- ・ 第1次波及効果において、7億7,761万円の雇用者所得が発生する。この雇用者所得は消費に転換されることにより4億6,012万円の第2次波及効果を生み出し、これを産業別にみると、不動産で1億3,657万円、対個人サービスで8,076万円、食料品で3,391万円、商業で2,399万円などとなる。

③ 波及効果合計（第1次波及効果＋第2次波及効果、図表5）

- ・ 第1次波及効果と第2次波及効果の合計は32億3,240万円となる。これを産業別でみると、対個人サービスで12億219万円、運輸で5億7,055万円、食料品で4億4,700万円となる。また粗付加価値誘発額は17億353万円となり、平成12年度の富岡市名目総生産額2,163億円を0.78%押し上げる効果となる。そして、就業誘発効果としては、324人（対個人サービス業175人、運輸47人、商業38人など）の雇用者の増加が見込まれる。

（図表6：経済波及効果計測シミュレーションのまとめ）

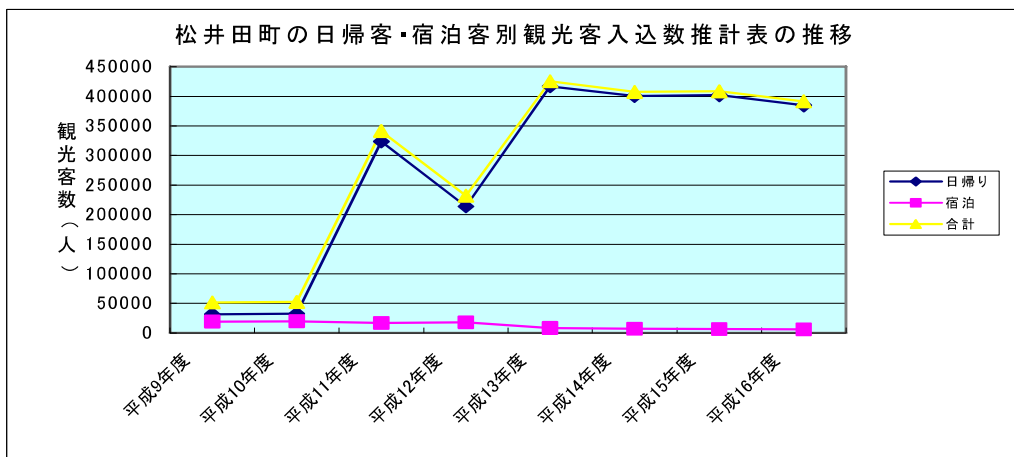
当該産業への 需要増減	経済波及効果			経済効果	名目市内総生産 押し上げ効果	就業誘発効果
	第1次 波及効果	第2次 波及効果	波及効果 合計			
5,263百万円	2,772百万円	460百万円	3,232百万円	8,495百万円	0.7875%	324人

参考事例

平成11年4月に「鉄道文化むら」をオープンした松井田町の観光客増加状況を富岡市に適用し、経済波及効果を分析したデータを参考として掲載した。

- ・ 松井田町「鉄道文化むら」は平成11年4月18日にオープンした。オープン前の平成9年度～平成10年度における松井田町の日帰り観光客入込数の年間平均は32,200人である。これに対しオープン後5年間の年間平均観光客入込数は351,280人となり、観光客数は11.2倍に増加している（図表7）。
- ・ 松井田町における鉄道文化むらオープンに伴う観光客の増加状況を富岡市に適用させた場合、富岡市の観光客数は1,000万人近くに達し、観光消費額は177億円増加することとなり（図表8、増加予想値4,000円ではなく、ここ5年間平均の1,980円により計測）、この試算に基づく観光客の受入体制を近い将来整備することを考慮すれば、非現実的な数値といえよう。
- ・ 富岡製糸場の世界遺産登録による経済波及効果分析において、白川郷の2.5倍という観光客増加状況を富岡市に適用したが、この2.5倍という数字を上限と捉えることのないよう留意されたい。前述のとおり、この前提は“控えめなもの”であり、近隣の松井田町の状況を考慮すれば2.5倍を上回る観光客数の伸びを達成することも十分可能と考えられるためである。

(図表 7：松井田町における観光客入込数の推移)



(図表 8：松井田町の日帰り観光客増加状況からみた富岡市の観光消費額予想増加額)

	年度	平均観光客入込数	松井田町増加率	富岡市観光客変動予想	富岡市観光客予想増加数	富岡市観光客平均消費額	富岡市観光消費額増加予想額
富岡市	H13~H17	869,819	1028.82% (11.2倍)	9,818,691 人	8,948,872 人	1,980 円	17,718,766,560 円
松井田町	H9~H10	32,200					
	H12~H16	363,480					

おわりに

本レポートでは、白川郷の事例を利用して経済波及効果を導き出したが、実際に世界遺産登録された場合には、「街づくり」や「富岡製糸場の保存と利活用および周辺整備」の視点からも今後の課題として様々な要素が浮上してくると思われる。何よりも大切なことは、世界遺産を有する富岡に相応しい「街づくり」「人づくり」「文化づくり」を地元住民の理解と協力のもとに推し進めることではないだろうか。また、国内外から訪れる観光客に対するホスピタリティ（もてなす気持ち）の醸成を図り、一人ひとりが世界遺産を守り伝えていく使命と責任を共有し合うことが重要であろう。

最後に、繰り返しになるが、今回の波及効果計測は、あくまでも平成12年の富岡市の経済構造をモデルとした、日帰り観光客を対象とした試算である。宿泊施設を含めた周辺開発、新規出店等に伴う建築需要などの波及効果は全く前提としていない。それらの建築需要も経済波及には大きく貢献すると考えられる。また、経済波及効果とともに市民意識や郷土意識の高揚という心理的效果もあわせて期待できるのではないだろうか。

以上